

# ようこそ大学生！9月創路学生週

毎年4回、1週間泊り込みで実習を行ってくださっている教育大創路校。2回目の授業模様をお伝えします。

## 「目が与える印象」



学生週1日目、アイスブレイク後に先陣を切ってくれたのは2年生・川端さんによる授業でした。

まずは赤ちゃんと大学生の顔写真を見比べ、目の大きさや受ける印象について話し合い。



目の大きさだけで印象が変わる！

その後、漫画の登場人物の目を生徒自身が描き込んで、目がいかに印象付けに大きく影響しているかを体験から学びました。これには生徒もワクワクしながら取り組んでいました。怒った様子、ちょっと格好付けた様子など、次々と色んな「目」をした絵が完成していきます。



これらのことから「人とのコミュニケーション時は目をよく見ることを心がけてみては？」という道徳の授業にもなるような提案をもって終了。

一見、難しそうなテーマ・教科を超えたテーマでも、漫画やアニメといった生徒にとって身近な材料を用いて授業が進んでいきました。いつものことからスタッフも感心です！

## 「性的二形論」

2日目は2年生・氏橋さんによる授業、「性的二形論」が進行。「性的二形」とはオスとメスで体のつくりが大きく異なってくることです。(カモやカマキリが例) 普段、あまり意識してはいないテーマだと思うのですが、どう進めていくのでしょうか？

オスとメスで体形が変わっている動物はどんなものがある？



カラフトマスやカブトムシといった生き物を取り上げ、なぜオスとメスで体に変化があるのか話し合いを通して考えました。答え合わせ時には「オスはメスを獲得するため、メスは子どもを守っていくために体が作られている」ということをわかりやすく解説してくれました。ここで、大学生数名がクワガタの格好をして劇仕立てで伝えてくれたのですから！これには生徒も驚きました。

「どうしたらもっと伝わるか」この姿勢は私たちスタッフにとっても大きな課題です。今回、学生さんのチームワークとよく考えた工夫から実現されたのでした。(以前も弥生時代の住民、人体骸骨ロボット等あり)

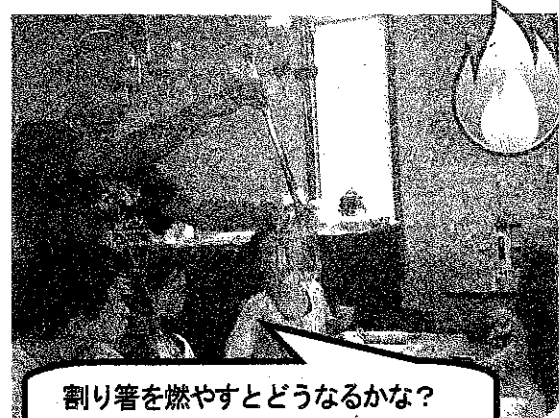


クワガタ登場！

## 「炭」を知ろう

前述した授業と並行して行われていたのが大学院生・三浦さんによる炭についての授業でした。最初2日間は座学で炭の成り立ち等について学び、余市教育福祉村でのお泊り会時に前もって用意されていた炭窯を使って実際に炭を作るという流れでした。

まず始めに、炭とはどんなものなのか割り箸とそれを即席で焼き炭化させた炭を手にとって比較してみると・・・触ったり、割ったり、においを嗅いだり、中には味を確かめたりする生徒も！このようにして、生徒たちは木炭は作成の過程で水分が抜けるので、木材よりも軽くて脆くなることを確認しました。

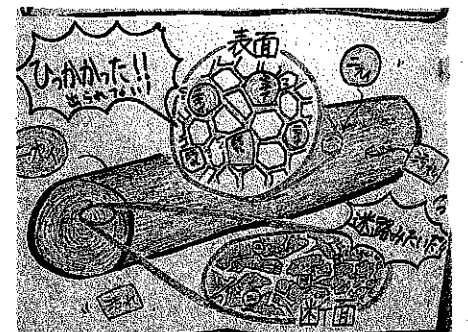


割り箸を燃やすとどうなるかな？木炭と見比べてみます。

その後、炭の作り方や炭の効能(脱臭・浄化)について実験を交えて学んでいきました。



浄化実験中



さあこの後は余市でのお泊り会での授業に引き続きます。野菜や肉、魚といった食べ物からボールペンは炭になるのか検証することに…。余市行きにますます期待がかかる壮大な授業となりました。

(寺田:記)

(p3続き)【炭の授業2時間目「炭は何に使われる」から】朝から授業が続き、子ども達は疲れてしまっていたという条件で大変だったでしょう。木炭の脱臭や浄水機能を冷蔵庫、洗濯機、飲み水、食事で使うかどうかを予測させ、実験でその働きを知らせ、なぜ、そのような働きがあるかを考えるという授業でした。中心の浄水実験がうまくいかず、脱臭も十分納得するような結果ではなかったようで、これを説明で補うという展開になりました。従って、子ども達は木の水分が出て木炭になったので、その出て行った所に汚れが吸着したのだ、とか、穴があるから匂いがそこに吸われたといった考えを示しはしましたが、なるほど、と膝を打って発見の喜びを感じるまでには至らなかったように思います。

有臭物質分子の大きさと木炭の穴の大きさは、どんな風になっていて、説明にあった「市販脱臭剤は穴を薬品と高温で大きくしたもの」は、この関係をどう変えて脱臭効果を高めたことになるのか、もう少し、丁寧な説明がないと、匂いや汚れの吸着が理解できないのではないのでしょうか。内容を再構築してみることが求められているように感じました...

●【授業検討会は火曜・金曜の2回、教師塾は事前16:30-19:00金曜。余市宿泊を入れた大規模の実習でした。●初めての学生も多い中、生徒交流も深まり、お別れ会は涙々・・・リダ-久守さんはじめ学生・倉賀野先生、お世話様でした！